

2016.3.5

筆記試験Ⅱ【11:10～12:10】

氏 名 _____

1. 社叢の保全に係わる近年の課題を3つあげ、その内容について50字程度で記述しなさい。

① _____

② _____

③ _____

2. 次の文章について、選択肢のなかから最も正しいと思われるものを選び、○をつけなさい。

日本の神社や社叢のことについて記した最も重要な文献の一つに、『延喜式』がある。この書物そのものは政治執行マニュアルだが、そのなかに神祇官と呼ぶ官庁の関係事案として神社があげられており、そこに神社数が記載されている。それらを式内社と呼ぶが、そこには① (A,約3千社 B,約5千社 C,1万社 D,2万社) が記載されていて、これらの神社は当然社叢を備えていたことと思われる。もっとも、たとえば「宮中神」などがそれだが、これら式内社の神社すべてに社叢があったわけではないことにも注意が必要であろう。宮中神は文字通りに朝廷という政治中心に祀られた、政治性の高い神社であるから一般化はできないけれども、カミがモリを必須としないこともあったのである。

神社がその政治性を高めた、つまりは政治のツール・手段に位置付けられた画期は、7世紀後半の② (A,推古天皇朝 B,天智天皇朝 C,天武天皇朝 D,聖武天皇朝) のことであった。当時は政教分離時代ではないから当たり前といえばそうなのだが、神社や社叢が政治とともにその足跡を歩んでいるという側面をも忘れてはならないだろう。

神社数が爆発的に広がったひとつの画期は、平安時代の後半期である。さまざまな理由・事情はあるのだが、神社の経済基盤である③ (A,荘園 B,公領 C,知行地 D,御恩地) が全国に設置されたためである。例外もあるけれども、この設置と同時にその神社の祭神が勧請されてそこに祀られるところとなった。当然勢力の大きい神社ほど広がっていくことになるわけだが、したがってそれは自然発生ではないから、当初から社叢があったかは疑わしいものもあることになる。ちなみに右に引いた平成の調査では、最大数を誇る神社の信仰は④ (A,稲荷信仰 B,伊勢信仰 C,天神信仰 D,八幡信仰) であって、この信仰が新たな時代の担い手となった武士たちの篤い崇敬を受け、武家政権と密接な関係を保ったからであった。やはり時代のニーズによって神社の盛衰があったことをよく物語る。

逆に平成の調査で最小の神社数の都道府県は、僅か11社しか存在しない⑤ (A,鹿児島県 B,沖縄県 C,青森県 D,北海道) である。パーセンテージすらはじき出せないほどの数字なのだが、ではここではカミに対する人々の崇敬はないのか。

そうではない。何よりもそれをよく示すのはウタキと呼ばれる信仰対象で、全県が神の地とも称されるほどいたるところにそれは存在し、篤い信仰がささげられ続けて今にいたっている。そのウタキには必ずモリが存在し、というよりもモリ自体が聖地として信仰の対象になっているのであり、神社や社叢を多面的な視点で考えねばならないことを私たちに語りかけているように思う。

3. 社叢学会は東日本大震災復興支援事業として被災地の社叢調査等を行っています。そこで明らかになった事項について、以下の記載で正しいものの番号に○を付けなさい。
1. 岩手県や宮城県北部のリアス式海岸地域では、過去の津波の経験から、高台に神社・寺院が立地していることから、今回の大津波に対して、建物や社叢の被害はさほど大きくなかった。
 2. 従来から大津波からの避難地として認められていた神社・社叢は無く、したがって避難者はだれも神社境内に逃げなかった
 3. 宮城県から福島県にかけての平野部にある社叢は、大津波により社殿ともども多くが流出し、わずかに一部のマツやタブノキ等が残されたのみである。
 4. 今回の地震では、神社敷地内の施設や社叢とも、振動、揺れの被害は非常に少なかった
 5. 地震の際、火災が多くのでん区で発生したが、社叢が火災の延焼を阻止した場所もある
 6. 残された社叢の現況調査では、基本的にスギの植林地が多かったが、ケヤキ、マツ、ツガ、モミ、アスナロ、タブノキ等の大木も見られ、自然性、歴史性が感じられた
 7. 大津波によりほとんどの樹林が流出した中で、社叢の一部が毅然として残ったことにより、被災地の方々を元気づけたものもあった
 8. 上記の残った社叢は、5年経った今もしっかりと保全され、一部は復興のシンボルとなっている
 9. 福島県の避難指示区域にある社叢は、基本的に誰も立ち寄ることが出来ないため、森林の荒廃化が危惧される
 10. 海岸部の社叢で残っているものは、タブノキ、アカガシ、ヤブツバキなど暖地性の植物も多く、温暖な地域であることが分かる
 11. 流出した神社や社叢は、現地で再建し、サクラ、ウメ、モミジなどの花木植栽により観光化を進めることで、復興に役立てるべきである
 12. 社叢を復活するには、当地の潜在自然植生の構成種であるタブノキ、シイ・カシ類、ヤブツバキ等の幼木を密植して自然遷移に任せ、照葉樹の森を目指すべきである
4. つぎの写真は、東北大震災時に津波の影響を受けた東北地方の山祇神社です。
- 矢印の調査区で記録した以下の種組成と写真が示す構造から、本社叢がどのような森林であるかを概説した後、社叢管理としての視点を述べなさい。さらには社叢が地域に果たす役割について考えられることを述べなさい。(300字程度)
- 高木層：優占種=ケヤキ、高さ18m、植被率90%、ケヤキ(胸高直径28.9cm)
- 亜高木層：優占種=ヤブツバキ、高さ8m、植被率20%

低木層：イヌツゲ、ノイバラ、ヤツデ、ガマズミ、ニワトコ、クサギ、スギなど

優占種=ササ

草本層：ノブドウ、タラノキ、フジ、カモガヤ、ムクノキ、ムラサキシキブ

優占種=ササ

林縁部：アワブキ、エノキ、ウワミズザクラ、ミツバアケビ、スイカズラ、ヤブ

ツバキ、マサキ、ツタウルシ、ネズミモチ、ケヤキ、ムクノキ



以上

論文 1

あなたが住んでいるまちの社叢を1か所あげて、その現状、問題点を簡潔に記し、今後、その問題点の解決に向けて、社叢の専門家として取り組むべき対応策をあわせて1,500字程度で記述しなさい。なお、適当な社叢が無い場合は、近隣の町の社叢を取り上げても構いません。

<社叢の名称>

<所在地>

<現状と問題点（500字程度）>

<取り組むべき対応策（500字程度）>

論文 2

祭礼、神事・仏事、あるいは仏典などに関係する植物はたくさんあります。社叢に自生するものもあるし、植栽されたものもあります。

これらの植物名を10種あげ、どのように使われるか、1,500字程度で記述しなさい。